

spirituality を「存在の意味」と定義することについて

藤 井 義 博 (藤女子大学 QOL 研究所長)

WHO において健康の新しい定義の試みがあったことが知られている。すなわち「人間が真に健康であるためには、身体的、精神的、社会的に健康であるだけでは不十分で、スピリチュアル (spiritual) にも健康 (well-being) であることが重要である」というものである。

スピリチュアルを、「霊的」と訳したのでは、意図された意味は十分に伝わらず、ある特殊な得体の知れない必要性のようにしか理解されないかもしれない。スピリチュアル (spiritual) を「存在の意味」(柏木哲夫) と定義することによって、それは普遍的な概念としてようやく一般の日本人にも届くものになると思われる。スピリチュアルな健康 (spiritual well-being) は、H. A. Maslow の人間の必要性の 5 つの順次的発展階層のうちの最上層の必要性 (自己実現の必要性) に含まれ得るものであり、スピリチュアル・ケア (spiritual care) は、「その人が自分の存在の意味をつかめるように、その人が持っている価値観を尊重してケアすること」と理解される。

定義の波紋はそれだけにとどまらない。例えば、メンタル・ヘルスは、spiritual well-being を含むならば、その人の全人格を包括し得るものになるであろう。男女の絆は、spiritual な男女を含むならば、生物学的男女 (sex)、社会的男女 (gender) だけでなく、存在の意味における男女の絆を問うことができるようになるであろう。親子の絆は、spiritual な親子を含むならば、存在の意味における絆として把握できるようになるであろう。このように、スピリチュアル (spiritual) を「存在の意味」とする定義の波及効果は、QOL ないしは well-being に関わる多くの分野において期待される。